

# Report from the EDGE

ディスレクシア (Dyslexia) とは……………

知的に問題がなく、聴覚、視覚の知覚的機能は正常なのに、読み書きに関して特徴のあるつまずきや学習の困難を示す症状のことをいいます。

EDGEは……………

ディスレクシアの正しい認識の普及と教育的な支援を目的とした特定非営利活動法人 (NPO) として、2001年10月に認証・設立され、活動しています。

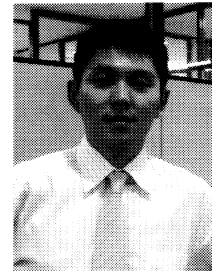
## NICE TO MEET YOU

NPOコトバノアトリエ代表理事 山本 繁

2002年に設立されたコトバノアトリエは、当初、中学生・高校生を対象にした小説教室や公立校への講師派遣など、いわゆるアート教育を主としたNPOだったのですが、2006年春より若者の就労支援に力を入れています。現在は、文章を書くことを仕事にしたい若者を支援するスクール事業、漫画家志望の若者に住まいなどを格安で提供する住居支援事業、インターネットラジオでニートの若者に必要な情報を届ける情報発信事業の3本柱で活動をしています。また、インターネットラジオの運営はニートや元ひきこもりの若者がほとんどを担っており、こ

こが若者にとっての無料の専門学校のようになっています。

私たちが「アート教育」から「就労支援」に活動をシフトさせた背景は、大きく二つあります。一つは、「アート教育」の現場でいじめなどの様々な問題と、それが後々の人生に与える影響について、見知りしたことです。もう一つは、数ある社会問題の中で優先事項を整理し、取り組みやすさを加味しつつ、上から順番に解決に当たっていこうと考えたからです。極端な話、私たちには社会からいじめを無くす方法はわからなかった、でも、就きたい仕事に就くための支援はできると考え



NPOコトバノアトリエ代表理事  
 山本 繁

たのです。もちろん、その場合でも、私たちだけの力では育成力もネットワークも弱く、十分な支援ができません。ですから、多くの個人や企業の協力が必要で、結果として映画制作会社や出版社、各種メディア関係の方々の協力を得て実現しております。

電話03-5581-1111  
 FAX03-5581-1174

〒100-0001 東京都千代田区外神田六九五番地  
 http://www.kotobano.co.jp  
 明石書店

**知りたい、聞きたい、伝えたい おともだちの障がい**  
オールカラー [全6巻]

**ディスレクシアってなあに?**

ローレン・E・モイニハン[著]トム・ディニン[イラスト]  
 藤堂栄子[訳]

◎定価1260円 (本体1200円+税) A4判 / 並製

主人公はディスレクシア(読み書き障害)のある小学生のマト。同じ年頃の子どもたちに向けて、ディスレクシアにはどんな特徴があって、どんなたいへんな思いをして、どんな配慮してもらえたらいいのかを語ります。ディスレクシアについて解説した初めての子ども向け絵本です。

…………… <以後続刊>

- ②ADHDってなあに? エレン・ウイナー[著]高山恵子[訳]
- ③トゥレット症候群ってなあに? ティラ・クリューガー[著] 服部律子[訳] 日本トゥレット協会[監修]
- ④自閉症ってなあに? アンドレア・エドワーズ[著]小川由紀野[訳]
- ⑤ことばの障がいってなあに? ジョン・ブライアント[著]服部律子[訳]
- ⑥聴覚障がいってなあに? エレン・アーネスト・シュナイダー[著]柳沢圭子[訳]

**LD・学習障害事典**

キヤロル・ターシャトン、ジョセフ・R・ハリス 著 竹田契一 監修  
 小野次郎、太田信子、西岡有希 監訳  
 ◎定価875円 (本体750円+税) A5判 上製/392頁

学習障害に関する親教師、医師が適切に対応できるよう、学習障害問題の用語、概念を、基本的に、かつ高度に専門的に解説した学習障害問題の決定版。その原因、症状、治療、関連する法律、教育、社会関連事項を力押し、収録頁数は600を超える。

**まんがが発達障害のある子の世界**  
 トビオはADHD  
 大橋ケン作 ◎定価1680円 (本体1600円+税)

**教師のためのLD・ADHD  
 教育支援マニュアル**  
 エドナ・D・コーブランド、ヴァレリー・L・ラズ  
 田中康雄監修、海輪由香子訳 ◎定価2100円 (本体2000円+税)

**軽度発達障害と思春期**  
 理解と対応のハンドブック  
 古荘純一 著 ◎定価2100円 (本体2000円+税)

**自閉症・アスペルガー症候群  
 の子どもへの教育**  
 診断・学校選びから自立に向けての指導法  
 グレニス・ジョーンズ 著 緒方明子監修 ◎定価1995円 (本体1900円+税) 海輪由香子訳

2006年春スタートのため、まだ大きな成果は出ておりません。ただ、何人かがIT企業さんで古いコンテンツのライターを務めたり、高校生がエッセイコンテストで最優秀賞をいただいたり、鬱病の方が45歳でライターデビューをしたり、20歳のモヒカンの青年が作家先生や映

画監督さんに混じってラジオのパーソナリティを務めたり、出版社に漫画の持込みをしまくっている状況から、2007年は、多くの、そして大きな成果に恵まれる年になると信じています。

私たちは今、自分たちの事業を「都市型ニート支援の世界先進モデル」と呼んでいます。今

後、世界中で若者の「就労」が問題となっていきます。私たちには、今の若者たちにはクリエイティビティがあるのだと、社会に提示するミッションがあります。そのことにより、この国の、就労支援が変わっていくものだと信じています。

## ★アメリカ見聞記

### ★ IDA（国際ディスレクシア協会）の年次大会への参加

2006年のIDAの年次大会はインディー500のカーレースで知られるインディアナポリスです。この町は今スポーツを中心に発展をしているところのようでスタジアムやらスポーツの殿堂の建設ラッシュでした。

全米から英語の教師、特殊教育の専門家、脳科学者、などが一同に集い11月8日から11日まで開催されました。今回改めて感じたのはディスレクシアがアメリカでは言語の問題として、英語教育の一環として

特に読みを中心に捕らえられていることです。日本では書きができないと学力がないと考えられるのは大違いです。読みさえ正確にできれば、後は試験の際や授業などでの配慮で十分に学力をつけられるということでしょう。

今年11月23日から25日まで横浜で行われるLD学会はディスレクシアを核とした大会になります。そのゲストスピーカーにお呼びする、メリアン・ウォルフ博士にもお目にかかりました。日本の文化的な背景も含めたディスレクシアに関する講演をしていただける予定です。

### ★ ニューヨークにおける啓発

ニューヨークに在住するEDGE会員を中心としてディスレクシアの理解と啓発をすることと、日本における発達障害全般への対応についての説明をすることを目的としてEDGE USAの方たちと活動しました。

ような方がいましたが、この機会をいただいてSSTを使ってそのような方への対応もお見せできました。

### ★ タカホの日本人教会

この教会でのディスレクシアに関するワークショップは2回目です。

今回は幅広く幼稚園や保育をしている方、補習校の教員、保護者、支援者などが参加してくださいました。ニューヨークでの活動の核となる方たちにも参加していただき、心強い思いをいたしました。

廊下の展示物を見学するとそれだけで「もしかしたら、この子は何らかの支援が必要？」と思われるお子さんもいました。教員の方に何うと「そのとおり、よく分かりますね」といわれる場合と「いやあー、気がつきませんでした」といって他の教員が「そういえば、さっきの体験でこの子もそうかな？って思っていたところ」などとクラスに2人くらいはいる様子が伺えました。

「気づき」がキーワードです。今はいくらでもよいガイドブックや教材が出てきているので、子どもの困り感に沿って適切な指導や配慮が進むことを祈って学校を後にしました。

### ★ ニューヨーク日本人学校

Greenwichにある日本人学校の教員の方たちにその前日、日本人教会で学んだことを生かす機会です。

教員の方たちは大変熱心に疑似体験に取り組んでいただきました。教員の中にも「人の話を聞いていない」「私が話している途中でさえぎる」などの日本の小学校や中学校で「どうしましょう」というケースになる

雑感：下校時は全員が十数台のバスに乗って帰るのですが、それを教員全員で笑顔で見送る姿が印象的でした。

(文責 藤堂栄子)

いばらきマナビィ・ネット

## もじ・よみかたシリーズ

のご案内

いばらきマナビィ・ネットの「もじ・よみかたシリーズ」は、読み書きにおける子ども達のつまづきを事前に回避、軽減することを目的として作成されました。「もじのかたちをとらえるためのひらがなれんしゅうちょう」は、全国各紙で取り上げられ、国公立幼稚園や小学校でも採用されています。その絵本版である「ひらがな絵本」は全5巻を出版予定です。第1巻前半では、キャラクター達が繰り広げる物語を通して、ひらがなの読みに習熟できるようになっています。「あいうえ おおきなくまさんも」「かきくけ こんこんこぎつねも」と楽しくテンポの良いお話は、読み聞かせにも適しています。

第2巻から第4巻の前半では、「よ(あしくる)」のなかま「よ」「ほ」など形の似た文字ごとに、指でなぞって練習をします。文字を覚えてたての頃は、“し”が“じ”となってしまうことも少なくありませんが、かわいい犬

のイラストとともに「しっぽの“し”」などと示すことで、字の基本形を絵の中で印象付けられるように工夫してあります。また、ジェットコースターの動きに合わせて、「よこせんかいで、たてくる“す”」など、目からだけではなく耳からも文字形のヒントが得られるようにしています。第5巻では、濁音と半濁音を織り込んだ、楽しいお話が展開されます。

各巻とも後半は、言葉遊びのページです。単語や文を読むということは、ただ与えられた文字を音にしていくという受身的な行為ではありません。事実、子どもたちの中には、「く」「ま」をそれぞれ音声化できてもそれを意味につなげることに困難を示す子もいます。「なにがかかっているかな」では、「まいくまめ」などの中から、「くま」という隠れた単語を探し出す言葉遊びを通じて、子ども達の読む力を伸ばさせます。

「ABC英語れんしゅうちょう」

でも同様の手法で、bとdなど形の似ている文字の混乱を防ぎます。また継次的な学習方法である「音の足し算(フォニックス)」とともに、「身近な英語」では同時的な方略を活用する練習を取り入れ、長所の活用と同時に、短所を補う練習を可能としています。

これらの練習は、私達のホームページ上(<http://www.rise.gr.jp/>)でも楽しんでいただけます。また私どもでは、これらの出版物から得られた利益を、不登校児童生徒を対象とした「カルチャー教室」の実施など子育て環境の充実のために活用しております。ホームページ上から、ご購入のお申込みをいただくこともできますので、ぜひ一度お立ち寄りください。

(小野村 哲 おのむら さとし  
：リヴォルヴ学校教育研究所)

内容についてのお問合せ先

TEL&FAX 029-856-8143

〒305-0051

つくば市二の宮4-8-3 1-404

※本はEDGEから購入できます



ひらがなれんしゅうちょう



ABC 英語れんしゅうちょう



ひらがな絵本 1

## 研修で得たこと

「NPO総合マネジメントコース」の実習として平成18年11月に約1ヶ月間EDGEで実習させていただきました。マネジメントコースの講義では一通りNPOの起業、運営、様々な事例を学びましたが、NPOで、一日の業務にふれると講義だけでは知りえない動きが見えてきました。毎日「そうか…」と新しい気づきがありました。事例として学ぶと単純に「すばらしい！」と興奮してしまいますが、実際には、当然のことながら、各関係者ともろもろの関わりが生じてきて、どのように対するか、取り組むべき問題が多い事にも気づかされました。特に教育分野は難しい事も多いのではないのでしょうか。

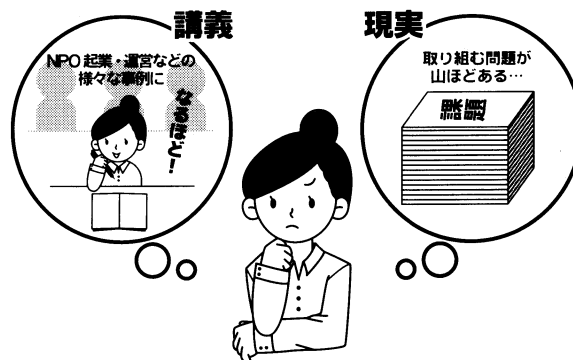
「ディスレクシア」という言葉は

まだまだ一般になじみが薄く、それがどのような事なのか、そしてどのように対応すればいいのかわかりたいという方も多いと思います。それを身近な具体例で説明できるEDGEの啓蒙、支援活動によって偏見を持つことなく「そうなのか」と理解を深めてもらうことは大いに意義のあることだと思います。

私自身はNPOをどのように事業

## 川本 晃子

化、発展させられるかという点にも興味がありましたが、実習1ヶ月では到底そこまで到達できませんでしたので、この実習を土台に自分の中で考えていきたいと思えます。1ヶ月間研修させていただきましたありがとうございます。EDGEのさらなる発展をお祈りしております。



## EDGE「英語塾の取り組み」

EDGE「英語塾」では、現在小学校6年から中学校2年の男女が同じ場で一緒に学んでいます。日本で「英語塾」というと、思い浮かべるのは、学校の補習や受験用に英語を勉強しているイメージがあるかもしれませんが、ここはそのような塾ではありません。

英語を肌で感じ、生きている英

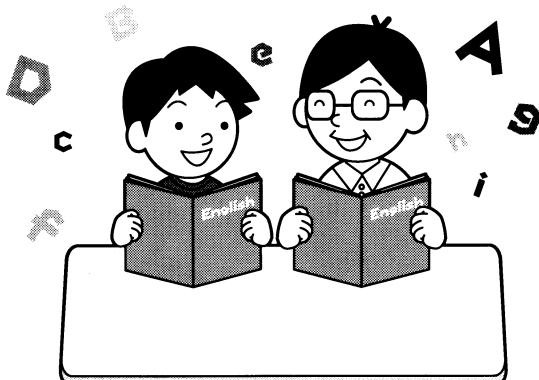
語を使って身につけることを目的とした場です。現在は、英国大使館のアンジェラ夫人と一緒に、文化の相違やイギリスの話なども交えて、楽しく学んでいます。

EDGE「英語塾」の特徴は、それぞれの子どもの「個」にあった学び方、分かり方に応じて、教育・指導をすすめていることです。年

## 木下 智子

齢も興味も学び方も異なる子どもたちは、それぞれの得意な力を発揮して、友だちに力を貸したり借りたりしながら学んでいます。子どもたちそれぞれの学び方が異なるため、多くの目が必要になると考え、補助スタッフは子どもの数だけいますが、スタッフの出番はいつもあるというわけではなく、ほとんどの場面で子どもたちは相互に啓発しあって、たくましく自ら力をつけてきています。

もし英語がきらい、苦手だ、わからないと思っているとしたら、自分に合わない覚え方や学び方をしているからかもしれません。自分にあった学び方を見つけよう。



# DX会報告と ミクシイのコミュニティについて

## DX会是一年経った

継続は力なり、DX会（旧成人ディスレクシア当事者会）は数えて10回、開くことができました。2ヶ月に一度、土曜日か日曜日の午後、2時間ぐらい、細く長く会を続けることを目標に、ここまで来れました。ディスレクシア当事者は一般的な生活をするときに、周囲の人々が出来る普通のことをするのが苦手で、それを直そうと人知れず悩んでいた人々です。

### ○「自信を持つこと」

まずは自分の良いところを探し、誉める作業から始めました。「俺には良いところなんてありません」「いつも業務日誌を書くのだって辛くて」「時間通り目的地に着けない」など、自分の欠点ばかり並べているばかりでした。かたくなに自分を否定していた参加者の心に自信を与えるのは容易ではありませんでした。

### ○「ほめること」

いろいろと良いところを探す作業をしているうちに、「単純作

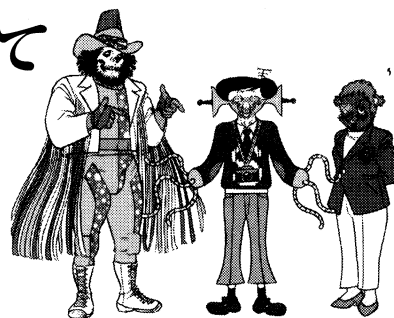
業が続けられる」「すぐ絵が描ける」「細かいミスを発見できる」など探すと出てくるものです。これを伸ばして行けば良いのです。少しでも出来ると大げさなぐらい誉めました。「すごい」「さすが」「キミのおかげで、みんなが幸福になれる」

### ○苦手なことを捨て、得意な分野を伸ばす

その際に、問題になるのは不得意な部分を修正させる日本の慣習から参加者の心が抜け出せないことでした。そこで、苦手なことを修正するより、得意な面を伸ばしたほうが、労力が少なく、しかも成功の可能性が高いことをいかに納得させるかでした。これを浸透させるまで、しばらくかかりました。

### ○ミクシイのコミュニティを立ち上げ

次第にわかってきたことはディスレクシアの当事者はデスクワークが苦手な人々が多く、創造的な文字を解さない作業のほうが得意なことでした。毎回



(会員作品)

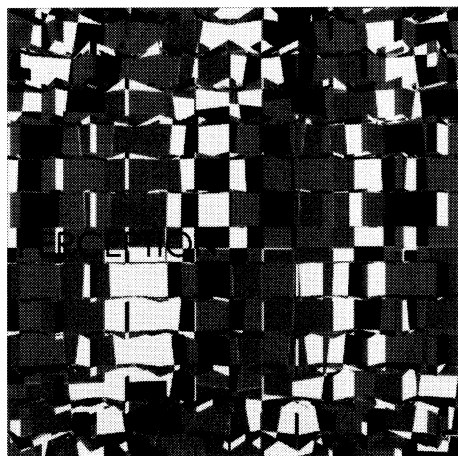
誉めることで、少しは参加者に自信らしきものが出て来たところに、自分たちの作品をどこかに発表したいという、要望が上がってきました。話し合い後、今年の11月、ミクシイにコミュニティを作り、作品を発表することになりました。2007年1月15日現在17名の参加者があり、毎日活動を続けています。

### ○自分たちの作品を紹介する

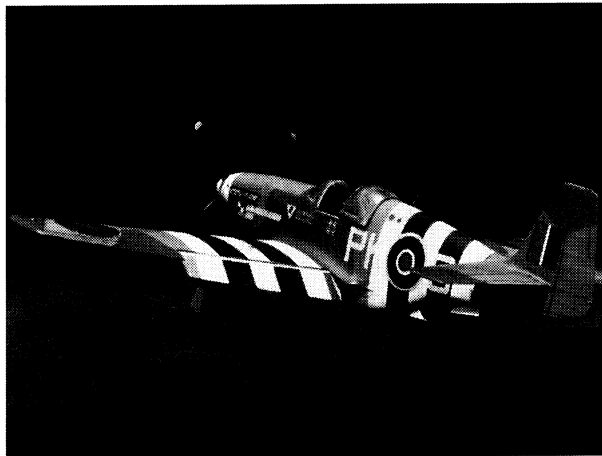
参加者のうちの数人が自分の作品（小説、評論、イラスト、写真）を定期的に発表するようになってきました。まだまだ脈略のない羅列に過ぎませんが、新しい試みとして出発することで、会の存在を明らかに出来ました。

ミクシイは紹介者がないと入れないので、参加ご希望の方は事務局、柴田にご連絡ください。

(文責 柴田章弘)



DX会のイメージ (会員作品)



プラモデルの飛行機 (会員作品)

## 平成18年度事業報告 特定非営利活動法人エッジ

今年度の最重要課題は東京都港区との協働事業として特別支援教育関連事業が4月より本格化したことである。昨年度より養成を開始した学習支援員は約100名となり、12月現在で40名が区内14の小中学校に派遣され、25件の学習支援に当たっている。本事業の拠点である個別支援室では保護者より177回の相談を受けた。事業実施に伴う様々な課題に日々直面しながらも、本事業は順調に推移している。

もう一つの大きなイベントは事務所の移転であった。永らくお世話になった六本木のみなどNPOハウスからJR浜松町近くのビルに移転し、10月より活動を開始した。

EDGE活動の三本柱は、啓発・サポート・ネットワークである。

啓発では、会員・支援者に対するニュースレターの発行、一般向けのメールマガジンの発

行、Webによる広報に加え、ブログを開設した。一般市民や教育関係者向けの啓発を目的とし、ディスレクシアや学習支援員派遣事業に関する紹介につき、主として都内における講演を21回行なった。愛をはこぶ人キャンペーンでは、ソープ画伯絵画展を3回開催し、ソープ画伯来日時には千葉と東京でワークショップを開催した。

サポートでは、前述の港区協働事業に加え、ディスレクシアの困難さを判断するスクリーニングツールの開発、ディスレクシア児童を対象とした英語塾の開講、パソコンを活用した入力支援のためのタッチタイピング講習会の開催、電子録音図書であるDAISY図書の作成を行った。当事者の情報交換会を継続すると共に、在米当事者による情報交換会を支援した。学習支援員のフォローアップを目的として、医療面からの配慮、思春

期への対応につき講習会を開催した。また、ソーシャル・スキル・トレーニングのトレーナー養成講座を開講した。

ネットワークとしては、JDDネットとの連携、ディスレクシア研究会・LD学会への参加、政府・大学の研究会へ参加した。

### 特定非営利活動法人エッジ 平成17年度決算報告

収入の部	
会費入会金収入	538,000
事業収入	2,453,460
その他収入	31,471,631
当期収入合計	34,463,091
支出の部	
事業費	26,052,365
管理費	9,664,345
当期収支差額	-1,253,619
前期繰越収支差額	2,398,778
次期繰越収支差額	1,145,159

## 平成19年度事業計画 特定非営利活動法人エッジ

前年度の活動を通じ決算報告でわかるように財政上の課題が明らかとなった。このため、今年度はエッジの3本柱である啓発・サポート・ネットワークと共に、事業の収益性改善を目指

し、従来の事業を継続すると共に、以下の活動を行う。

啓発では講師を養成し講演会等を拡充する。

サポートでは、児童を対象とした学習塾の英数国への拡充、

学習支援員や児童を対象とした夏季集中講座を開設する。

運営面では法人会員の増大と、事業に関連した助成金の獲得を目指す。

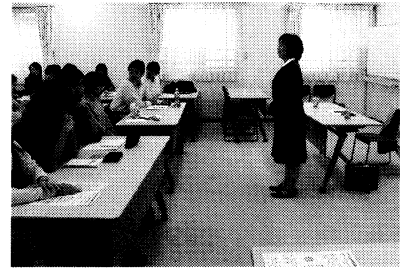
## LSAフォローアップ研修から

事務局 柴田 章弘

12月2日の土曜日の午後、「軽度発達障害：思春期における対応」と題して行われた。LSAの方々の熱い要望で、池田聡子先生に登場していただいた。研修は先生のユニークなトークに受講者皆引き込まれ、自然に本題に移って行った。思春期における対応は難しいことを改めて、再確認した。中高生になれば、世の中に対して、小生意気な態度を取る。「子どものようで、大人でない。大人のように

子どもでない」あらゆることで、中途半端な年代である思春期の過ごし方を失敗すると確かにその後の人生展開が変わってくる。自分自身を振り返っても、あの頃の悪夢が未だに癒しきれない傷を残してきた。子どもたちが凹んで路頭に迷うより、未来に向かって明るくこの時期を過ごすために、周囲の大人がどう対応するかを聞いたかった。特に「曖昧にせず、出来るだけ本人に分かりやすいように

教え、諭すように対応する」などの提言は本当に参考になった。30数人の受講者と池田先生のパワフルな熱気が教室の気温を上げているように思えた。



## 勉強が楽しくなるノート術

ディスレクシアの人々にとってノートをとることは苦痛でならない。せっかく書いてもグチャクチャで、後で何が書いてあるかわからず、後悔したことはないでしょうか。そんな私たちに朗報です。マインドマップの手法を使えば、この苦痛から逃れられる。どうぞ一度、お手にとって、お読みください。新しい人生が開けるかもしれません。

著者：トニー・ブザン

訳者：神田昌典

出版社：ダイヤモンド社

発行年月：2006年11月

値段：1680円



## EDGE 活動報告と予定

### 2006年度

- 12月5日 茨城県教員研修（つくば市）で講演
- 12月8日 橘学園で講演
- 12月10日 JDDネットフォーラム
- 12月18日 NPO事業サポートセンターで講演

### 2007年度

- 1月11日 中小企業同友会障害者委員会で講演
- 1月16日 港区児童館で講演
- 1月18日 港区保健所で講演
- 1月20日 理事会
- 1月27日 筑波大学研究会
- 2月1～7日 マッケンジー・ソープ絵画展  
(丸善丸ノ内本店)
- 2月24日 ユニバーサルデザインで講演
- 2月25日 総会
- 4月14～17日 神戸・ディスレクシア国際会議

## ご支援ありがとうございました。

昨年のニューズレター12号で、NPO EDGEの活動に対して、危機的な状況であることをお知らせしました。皆さま方の熱い、ご支援で計31名の方々からご寄付をいただきました。謹んで御礼を申し上げます。

### ご寄付金申込者芳名

山澤 愛弓様	島名 澄子様	高橋 英夫様
菅谷 眞一様	浜谷 海八様	吉岡 史雄様
門司 豊 様	山崎 敦子様	林 正紀様
緒方 明子様	磯部 千枝様	千葉 英子様
永井 智子様	吉田 浩滋様	

他17名様

合計 215,330円  
(2006年12月31日現在)



## 愛をはこぶ人キャンペーン

愛をはこぶ人キャンペーンでは、1月29日(月)にギャラリー江夏さんの新装された展示スペースで、2007年のスタートを祝して、キックオフのパーティーを開催しました。

マッケンジー・ソープさんのたくさんの絵に囲まれた会場には、実行委員長の上野先生をはじめ18人の参加者があり、和やかな歓談の中、恒例の秋のソープ来日絵画展に向けて多くの新しい企画やアイデアが出ました。愛をはこぶ人

キャンペーンでは原点である「きっかけ作り」に立ち返り、子どもたちや困難に直面している多くの人たちとの接点になるワークショップやディスレクシア講演会、絵画展などを開催していきます。

2月1日(木)～7日(水)まで、丸善丸の内本店4階ギャラリーで、マッケンジー・ソープ展が開催されました。東京駅から近く、来やすい場所での開催であったため、多様な属性の多くの人にご来場いただきました。私たちの主旨

や理念が広がり、よりたくさんの方が、ある人は「きっかけ」をつかみ、また、ある人はそれをサポートするというかたちで、この活動に参加されていく「きっかけ」になったのではないかと思います。このように人のもつ優しさが連鎖して、一人でも多くの方が自らの能力を存分に発揮できる道を見つけれられることを期待します。

(文責 藪 巧一)



Report from the EDGE - 第13号 -

2007年2月26日発行

発行者 NPO法人EDGE

発行責任者 藤堂栄子 東京都港区浜松町1-20-2  
村瀬ビル3F

Tel.03-6240-0670・0672 Fax.03-6240-0671

編集 NPO法人EDGE事務局 柴田章弘

印刷 株式会社 信英堂

<http://www.npo-edge.jp>

[http://blog.livedoor.jp/npo\\_egde/](http://blog.livedoor.jp/npo_egde/)

[email:info@npo-edge.jp](mailto:email:info@npo-edge.jp)